

2024 年度 事業報告書
(2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

特定非営利活動法人
アフリカ児童教育基金の会 ACEF

昨年度同様、世界的ガソリン高騰、日本国内の物価高騰の影響を受け、基金への寄附が著しく減少してきている。さらに歴史的円安が現地への寄付金送金に大きく影響し、当会も財政的にかなり困窮している。

ケニアではコロナ禍後、第一次産業である観光業が少しずつ回復傾向ではあるが、経済面での飛躍的な復興には及んでおらず、ケニア政府が謳う財政確保のため追徴課税などの増税への国民反発も大きく、国内各地でのデモも起こっている。

さらに、ケニアの国民健康保険制度の改変により、保険機構から国内の医療機関への保険料の未払いが発生し、多くの医療機関が困窮しており、国民生活にも大きな影響を与えている。

定款1の医療援助事業

エンブ(タウン分院を含む)、エナ、マキマの3つの病院を運営。迅速な対応や充実した機器が備わっていることから、近隣地域からも信頼がおける私立病院として知名度が高い。当会からの事業支出なし。しかし従来は経済的自立ができていたが、今般の医療保険改変の影響により、給料の遅延払いが発生している。

エナ病院のエイズケアセンターでは、コロナ禍でさらに弱者となったエイズ患者への定期健診、処方のほか、患者のカウンセリング、栄養指導の他にエイズ予防啓蒙活動と、後出の患者宅の訪問ケアを実施しているが、トランプ米大統領の就任直後、大統領令により USAID への資金が一時ストップし、USAID からの薬品提供に全面頼っていた当会エイズケアセンターへも薬品類が入って来ず、現場は翻弄された。なお現在は薬品の提供が再開され、これまで通りのエイズケアを実施できている。

今年度のメディカルキャンプ(無償診療日)はサンプル地区で実施。受診者約 500 人との報告が上がっている。患者数は前年度を大きく下回ったが、それは土地柄的、人口密度的に影響されたものであり、ニーズがなかったわけではなく、患者が遠くからも集まり、地域住民への医療貢献を果たした。

定款2の医療講習会開催事業

エナ病院エイズケアセンターでは、2019 年度より医療法人社団元志会の支援を得て、来院の必要があるのに経済的または身体的に困難で診察に来れない患者宅への訪問ケア(診察、投薬、カウンセリング、栄養指導など)を月 8 回程度実施。特にコロナ禍でさらに弱者となった患者のケアをしている。

また望まぬ妊娠やそれによる HIV/AIDS に感染した若年女子に対するケア、妊娠中の母子感染を防ぐためのケアを目的とした母子健康セミナーを月末に 1 回程度実施。悩みをシェアしたり、特に若い母親のケアをしている。

この訪問ケアや母子健康セミナーに医療学生および地域医療に興味のあるインターン学生が同行し、実際に患者の生活環境や現在の問題点などを学び、それぞれが今後どのような形でサポートができるかを考える活動として提供している。当会エイズカウンセラーが長年患者との信頼関係を築いているからこそできる活動であり、他団体では実現が難しいこの活動はインターン学生には大変好評である。

定款3の職業技術訓練

主に経済的や諸事情により義務教育(6歳から13歳までの8年制)を修了出来なかった青年及び子女を対象に、8つのコース(自動車整備、板金塗装、金属加工、家具木工、洋裁服飾、美容、コンピューター技術、自動車免許取得)に分けて、将来の雇用を促進する教育事業として当会が運営。ケニア政府公認校に指定されて13年。エンブ郡から教員派遣などを受けて自立運営しているため、当会からの事業支出なし。

毎年行っている他団体 NPO 法人が支援する事業とコラボし、学校の長期休暇を利用し、年3回、当職業訓練所で小学校教師や洋裁教師の再トレーニングプログラムを実施。ケニアでは再教育プログラムはあまり実施されていないため、毎回参加者からは大変好評で、教育の質の向上に貢献しているとともに、当方の教職員の向上心を催す良い機会になっている。

定款4の教育支援

小学校運営

ケニアの義務教育を行う小学校(7歳から14歳までの8年制)は、年末に行われる全国統一高校入学試験(日本のセンター試験のような試験で、この成績により高校が振り分けられる)では、今年もエンブ郡の450校中、男子最高得点取得者、女子最高得点取得者を輩出し、エンブ郡総合首位を13年連続で独占した。将来、ケニアを背負って立つ優秀な人材を育成している。生徒数 保育所を含め、総生徒数 約 680 名

また、これまで小学校 8 年制(義務教育)、高校 4 年制システム(8-4-4)が、2023 年 1 月より新教育システム(CBC=小学校 6 年、中学 3 年、高校 3 年)に変更され、新設した中学校(Junior Secondary)も今年度第 3 学年まで揃った。中学校ではこれまでの主教科メインの授業スタイルから、副教科へも重きを置くスタイルに替わったため、教室の他にも理科実験室なども増築。またこれまでカリキュラムがあっても実施されていなかった体育や家庭科などの授業にも力を入れるようになった。小学校は経済的自立ができており当会からの事業支出なし。後出の J&S の学資支援をして、「ケニア人がケニアを支援する」形を形成している。

エイズ孤児院 ACEF ジャンプ & スマイルチルドレンセンター運営

「エイズ感染孤児」を対象にした、子供たちの生活向上と教育支援事業を実施するための ACEF ジャンプ & スマイルセンター(以下 J&S)の運営も 11 年に達し、大半の生徒は高校や当会の職業訓練校へ進学し、今年度、最期小学 8 年生が統一テストを受験し、設立時の初期メンバーには小学生はいなくなった。小学校を卒業後、高校、職業訓練校へ進学した者は、J&P から通学している者、高校の寮に入っている者、保護者宅から通学している者など様々であるが、エナ・エイズケアセンターと連携して健康管理を行い、子供たちに教育の場を提供し、せっかく生まれた人生の生きる道を探り、絵画や音楽、ダンス、スポーツなど適性を生かした道とともに支援している。

J&P は設立から 11 年が経過し次期入所者の選定を開始していた矢先、2023 年 10 月ケニア政府からケ

ニア国内の孤児院の運営に関する方針転換が発表された。その内容は、今後 8 年で孤児院に滞在しているすべての子供達を親戚の元へ返し孤児院の運営は終了。今後は親戚などが協力して子供達を養育。各孤児院に登録している生徒たちの必要経費(学費や生活費)は、今後も継続して各団体が責任を持って支援。

理由:

- ① 孤児院は犯罪の温床(人身、臓器売買など)になりやすい
- ② 孤児が相続するはずの財産(土地など)を親戚が勝手に売買、処分することを避ける

現在、J&P から近隣の中学校へ通っている者や行政から依頼を受け預かっている者、近隣の非常に貧しい家庭の子供数人は継続して J&P に滞在。しかしこの数人も数年のうちに中学校を卒業するタイミングで親戚などの元へ帰すことに。

ケニア政府は【孤児院に滞在している子供達は親戚の元へ戻す】と発表した。元々エイズで親を亡くし預かっている祖母などが貧困家庭であったり、コミュニティの中で差別され学校に通えない子供達を預かってきた。引き取る親戚全員が裕福で余裕のある人達ばかりではなく、親戚宅などへ戻したところで学校へ通えるのかどうか、ちゃんと生活できるかは大いに疑問。

政府は方針を打ち立て通達したが、各親戚や子供達への政府支援は一切なし。表向きはどうであれ、実際には各団体が今後も学費や生活費などの支援を継続する。さらに今後は家庭訪問し、HIV 陽性の子供たちが毎月受診し薬を服用しているかの確認やカウンセリングなどの必要性がある。経済的支援は、金銭を保護者に渡すと別の使途で使ってしまうため(学費に充てず家族の生活費に等)、学費は当会が直接学校へ振込など、これまでとは違った形での支援は継続。

孤児院施設の今後の使途は、学校が休みに入った時期などに子供達が帰ってこれる場所とし、日ごろの成果や生活の様子を話す機会を持てるよう存続。ただ一部改修して日本人インターン生が宿泊できる住居にしたり、コミュニティに開放して使用してもらえるようにする予定。

また、エイズ孤児施設の経済的自立のため、有機農法による農園を整備、家畜の世話をし、自給自足の生活を目指している。クラウドファンディングにより、ダチョウ園を含むジョイアスパークを建設。詳細は後述する。

定款5の有機薬剤及び有機肥料の製造と普及の推進

農業立国を目指すケニア国家の国策を支援するため、従来から有毒で高価な化学肥料や、化学農薬に依存してきた農業栽培方式から、安全で安価な有機微生物を活用した「有機肥料及び農作物の病害虫を抑制」ための、自然再生型の農業栽培の転換を目的として、貧しい農民への「有機肥料の知識と技術」の教育を継続。有機肥料を製造、販売、普及啓発する EM ケニアという別会社に普及活動を委譲したため経済的に自立しており、事業費の支出はなし。

定款6 環境保全に係る事業

環境保全活動

コロナ禍のため中止していた毎年恒例のクリーナップデーを 5 月末に実施。ACEF の関連施設のスタッフ、地域教育機関(大学、高校など)、エンブ郡環境庁、また環境保全に興味があり意欲のある任意グループなどにも呼びかけ、公共イベントなどで散らかるゴミを拾いながら、環境保全について話す機会を得ている。エンブ郡知事が開催の挨拶をし、毎回現地マスコミ(テレビ、ネットニュース等)にも取り上げられている。今年度も事前告知を SNS で呼びかけたお蔭で約 700 名が参加した。

ゴミの分別回収では、生ゴミとプラスチックやカン・ビンなどの分別作業をするためのステーションを設置している地域環境団体 **Utamaduni** をサポート。ロバ車で回収したごみをステーションで分別する作業を地域の若年層の雇用支援として実施。分別したプラスチック、カン・ビンは業者に引き取ってもらった収益は、**Utamaduni** の就労、自立支援の運営資金とする。日本人インターン生も視察に行き一緒に回収作業をして現地の環境問題を身近に体験する活動としても活用している。

コロナ禍で中止されていたイベントなどが復活し、屋内外販売イベントに参加。職業訓練校洋裁コース卒業生が、日本国内向けのアフリカ布バックの普及もサポート。デザイン、縫製のアドバイス、販路調査、出店先営業、委託販売、購入者からのフィードバックなどをまとめて次の作品に活かせるようにサポートした。**Utamaduni** のサポートのため、事業費支出はなし。

複合施設 ジョイアスパーク建設

アフリカと言え、市井の人は野生動物を見る機会は極めて少ない(場所によって国立公園や保護区と隣接している場所ではゾウやシマウマは日常茶飯事で見ることはできる)。小学校などの校外学習や修学旅行で保護区へ行ってはじめて野生動物を見たという子どもも多い。

そこで、**2020** 年のクラウドファンディングで呼びかけ、ダチョウ園を建設。収益が得られればそれをエイズ孤児院の運営費に充てる計画であるが、それだけでは大きな集客は見込めないため、校外学習だけでなく家族連れをターゲットとして、遊戯施設(遊具、アスレチック、ジップライン、迷路、マウンテンバイクコースなど)と、様々な鳥類、カメ、ワニなども併せて飼育し、ふれあい動物園兼環境学習ができる複合施設ジョイアスパークを設立。小中学校、高校の校外学習として利用されているが、広報期間のため、収益はほとんどない状態。近いうちに運営の見直し、縮小予定。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	支出額
定款① 医療援助活動	病院は自立運営しているので、事業費支出はなし。	年中無休 24 時間対応	・エンブ郡内	0 円
	無料診療日実施 (メディカルキャンプ)	2 月 13 日(火)	エンブ郡マキマ村	1,284 千円
定款② 医療講習会開催事業	エイズ患者宅への訪問ケア 母子健康セミナー	毎月 10 回程度	・エンブ郡近郊	652 千円
定款③ 各種の職業訓練学校の運営事業	政府認定校になったことにより、事業費支出なし			0 円
定款④ 教育支援事業	エイズで親を亡くした子ども達を預かる ACEF ジャンプ&スマイルセンター(孤児院)の運営	年間を通して	エンブ郡マキマ村	6,244 千円
	野生動物とふれあい、環境問題を学習する施設ジョイアスパーク建設、運営	年間を通して	エンブ郡マキマ村	5,813 千円
定款⑤ 有機薬剤及び有機肥料の普及啓発事業	EM ケニアが有機肥料の製造、販売、普及啓発活動を担っているため、事業費支出はなし。			0 円
定款⑥ 環境保全に係る事業	Utamaduni によるゴミ回収事業をサポート			0 円
事業実施経費合計				13,994 千円

(2) その他の事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	支出額
定款① 有機薬剤及び有機肥料の販売事業	この事業は実施しておりません。			0 千円